

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 福岡ケアサービス

ケアハウス「桜ガーデン生の松原」(ケアハウス)
グループホーム「安養」(認知症対応型共同生活介護)
福岡ケアサービス・ヘルパーステーション(訪問介護事業)

グループホーム「花安養」(認知症対応型共同生活介護)
小規模多機能ホーム「桜さろん」(小規模多機能居宅介護)

特別養護老人ホーム 初花(介護老人福祉施設)
ショートステイサービス 初花(短期入所生活介護)

福岡市立老人福祉センター「福寿園」(管理運営)

令和4年度 事業報告 総括

令和4年度の総括として、今年度もここ数年同様、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）問題により翻弄させられました。特に複数の事業所で数度クラスターが発生するなどその対応には困難さも見られ、在宅サービスにおいては、それを理由に事業所変更などの対応を余儀なくされるなど事業所運営にも大きな影響がみられました。新型コロナ感染症が感染症法上2類から5類に引き上げられ、コロナ前の日常に戻りつつありますが引き続き一定程度の慎重さを維持しながら対応していく予定です。

また今年度は、社会情勢の不安定さから物価高騰等につながり、人件費等（人材確保に関する費用含）の負担増により、経営の圧迫もみられてきていることにより、今期、一部の事業所においては居住費や食費等の一部改定等を行いました。ただ介護サービスは公定価格が大部分を占めることから、価格の転嫁が容易ではなく、今後このような状況が長引けば更なる課題として残ってくるのが想定されます。状況によっては、次期介護報酬改定の状況等をみながら、既存事業所の業態変更など含め検討することも必要に思われます。

最後に、最近の介護サービスにおける大きな課題は人材の確保と育成であります。今年度も介護系専門学校の留学生の確保については協力を得ることが出来、課題はあるものの今後の人材確保の体制整備に一定程度の効果を見ることはできました。加え業務の標準化並びに生産性の向上に向けた取り組みも今年度も引き続き行いましたが運営体制の確保の面から取り組むべき優先度が高い課題であり、引き続き介護ロボット等並びにICT等の活用をもって体制整備に取り組んでいく必要があります。

来年は介護報酬の改定なども控えており昨今の介護サービス事業所の抱える課題がどのように対応策としてあらわれてくるか注視していなければならない、介護報酬等の審議状況、推移などの経過を見ながら俯瞰的な状況把握と判断をもって事業運営への対応を行っていきます。

〈報告事項〉

(1) 自立支援介護の推進、体制整備を図ります。

誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトへの取り組みを継続し、計画的な実施が出来ました。

ノーリフティングケアに取り組むことで、介護マネジメントについて取り組みを行いました。

ジョブローテーションを通じ業務の平準化に努めました。

LIFEへの登録、申請と共にフィードバック情報の活用にも努めました。

(2) 働きやすい職場づくりを推進していきます。

職場環境委員会を中心に、職員アンケート等を通じ、職場環境の改善に取り組みました。

福利厚生など含めた職場環境改善、規定等の見直しについて検討いたしました。

職場内研修等の再構築並びにオンライン等研修を活用しキャリアアップ体制の促進を図りました。

(3) 介護人材の確保及び育成に関する取り組みを推進していきます。

介護福祉士等の養成校と連携し、外国人留学生（＝人材）の確保、体制整備を行いました。

介護業務における生産性の向上に資する情報の収集と把握に努めました。

(4) 感染症や災害に備えた事業継続体制の構築、地域連携ネットワークの推進していきます。

感染、災害時に備えた事業継続計画（BCP）の策定について、包括的な委員会体制の中で検討を行いました。

事業所、拠点ごとに当該圏域のネットワークを活用した地機関連携に努めました。

福祉避難所として効果的な取り組みを進める為、行政との連携を図りながら要援護者の受入れを行いました。

(5) 職場環境改善への取り組みの推進を図ります。（ローコストオペレーション含む）

事業所、拠点ごとに定期的な設備点検等を行い、職場環境の維持に努めました。
 コロナ禍、物価高騰下、各種助成金等の活用を行い、各所の適切な体制構築に努めました。
 業務の効率化、生産性の向上のための体制変更、検討を行いました。
 必要に応じ業者の見直しを行い、ローコストオペレーションに努めることが出来ました。

【令和4年度 内部研修実績】

月	目的	内 容	講 師 他	参加
4月		コロナ感染症流行のため中止		
5月		コロナ感染症流行のため中止		
6月	サービスの質の向上と確保	感染症対策について(食中毒・コロナ感染)	資料・レポート	57名
7月		コロナ感染症流行のため中止		
8月	サービスの質の向上と確保	高齢者虐待防止研修・身体拘束廃止研修	資料・レポート	50名
9月	運営体制の整備とか悪人	職業倫理と法令遵守	理事長・部長	12名
11月	サービスの質の向上と確保	感染症について(インフルエンザ、ノロウイルス)	感染対策委員会	12名
12月	サービスの質の向上と確保	事故防止・身体拘束廃止の意義	動画視聴・レポート	57名
2月	サービスの質の向上と確保	認知症ケア研修(認知症の理解)	動画視聴・レポート	47名
3月	サービスの質の向上と確保	リーダー研修	理事長・部長	12名

【令和4年度 外部研修実績】(参加延べ人数40名 前年度38名)

日 時	研 修 名	主 催	人数
5月13日	新任職員研修Ⅰ(社会人1年目)(zoom)	福岡市社会福祉協議会	1人
6月17日	新任職員研修Ⅱ(福祉業務2~3年目)(zoom)	福岡市社会福祉協議会	1人
6月18日	甲種防火管理者再講習	福岡市	1人
8月~	認知症対応実践者研修	福岡市	1人
8月17日	認知症対応型事業管理者研修	福岡市	1人
9月~2月	主任介護支援専門員研修	福岡県介護支援専門員協会	1人
9月	役職者研修(障害者人権)	福岡市	1人
10月21日	事故発生予防研修(zoom)	福岡市老人福祉施設協議会	1人
10月7日	市給食施設従事者研修会	福岡市	1人
11月~	認知症介護実践者研修	福岡市	1人
11月	介護職員技術向上研修(①②)	福岡市社会福祉協議会	1人
11月18日	役職者人権研修会「ハラスメント」	福岡市	3人
12月4日	リウマチ相談員養成研修	(一社)日本リウマチ学会	1人
12月8日	事例研究発表大会(zoom)	福岡市老人福祉施設協議会	3人
1月13日	高齢者虐待防止の基本(zoom)	福岡市	1人
2月7日	排せつケア(zoom)	福岡市	2人
2月7日	記録の質の向上(zoom)	福岡市	2人
2月9日	権利擁護と虐待防止、成年後見制度(zoom)	福岡市	1人
2月1日	口腔衛生管理の充実について(zoom)	福岡市	1人
2月10日	感染症予防と対処法(zoom)	福岡市	1人
2月5日	高齢者虐待と認知症について考える(zoom)	福岡市	1人
2月13日	高齢者虐待・身体拘束ゼロへの取組み(zoom)	福岡市	2人
2月10日	介護職員のための医療的視点(zoom)	福岡市	2人
2月10日	接遇マナー研修(zoom)	福岡市	1人
2月10日	メンタルヘルス(zoom)	福岡市	1人
3月13日	認知症対応型サービス事業管理者研修(zoom)	福岡市	3人
3月10日	看取り研修(zoom)	福岡市老人福祉施設協議会	2人
3月18日	甲種防火管理者再講習	福岡市	1人
3月22日	施設ケアマネとしてのリスクマネジメント(zoom)	福岡市	1人

令和4年度事業報告書

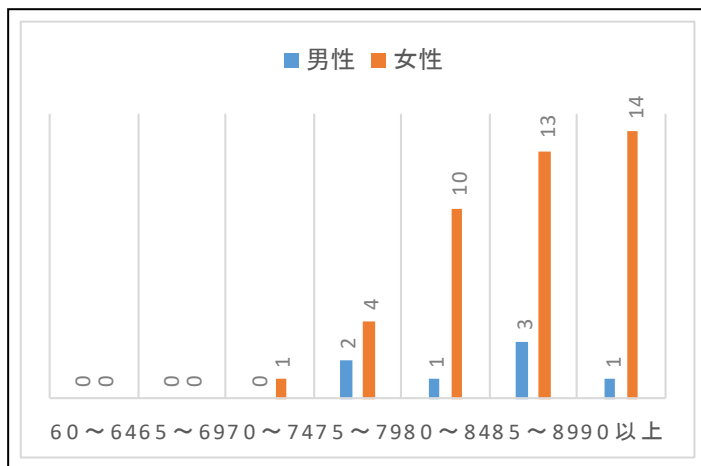
事業所名：ケアハウス桜ガーデン生の松原

1. 全体状況

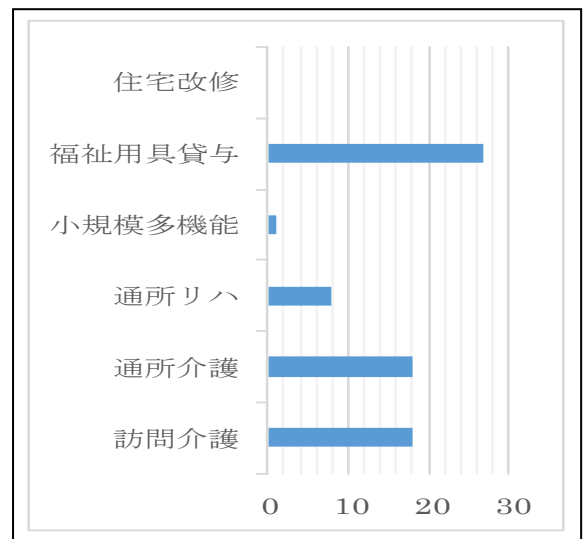
令和4年度の入居状況は2月までは50名ペースで推移していたが、後半に入退去が続き、満床が維持できず年間入居率100%を維持することができなかった。退居は13名。退居理由は、ご逝去による退居が2名、法人内のグループホームへの移行が2名、外部の特別養護老人ホーム入居が2名、外部の介護付き有料老人ホーム入居が4名、長期入院による退居が1名、入居者の諸事情による退居が2名という内訳で、前年度を上回る退居者数となった。待機者は20名前後で推移。前年度と同様空室のお知らせ・入居の案内をしても、「コロナが怖いから」「施設に入ると自由がなくなるから」との理由で入居を見合わせられるケースが多く、問合せ・見学を行った方がそのまま入居につながるケースが増加した。また施設の外出及び入館制限は、コロナ感染の状況に応じて強弱を繰り返してきたが、そのことに対する不満は若干あるものの、多数のご入居者からの理解を得ることが出来ている。最後に、桜ガーデンの開設時から運用してきた夫婦部屋は、令和4年度5月のご夫婦退居以降需要がなく、空室回避という観点から個室運用に切り替えている。

2. 運営状況

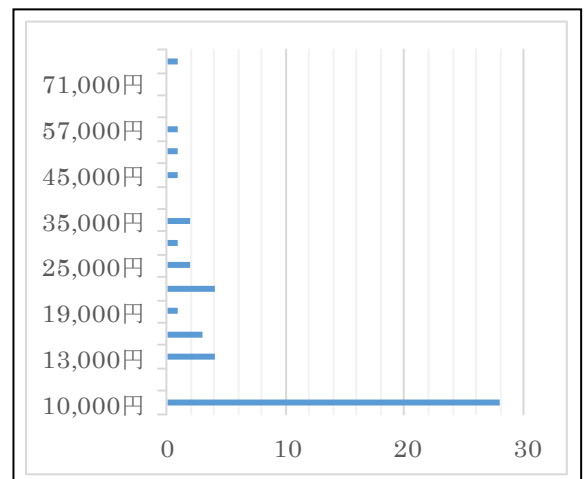
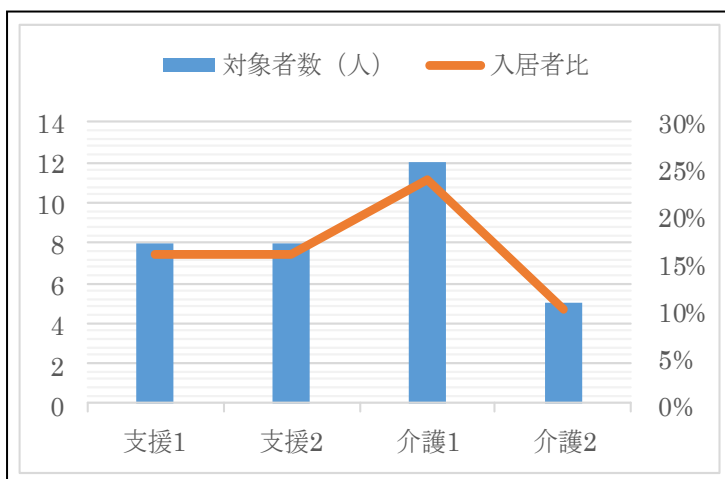
【図1 男女・年齢比】（平均84.9 最低71 最高102）



【図3 サービス種類別利用状況】



【図2 要介護認定者割合 67%←68%】（予防66%介護34%） 【図4 サービス提供費階層別内訳】



令和4年度事業報告

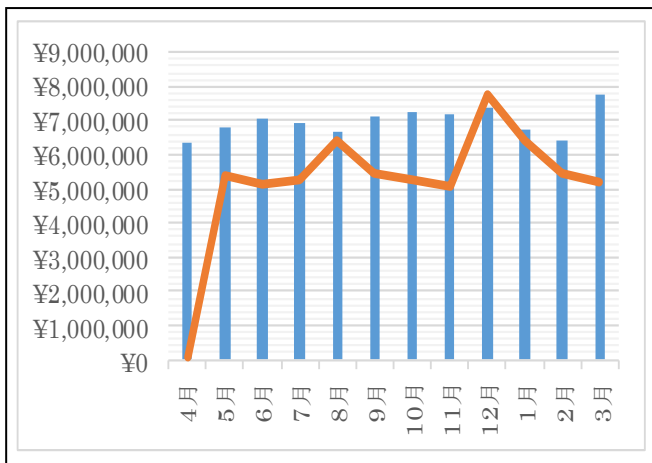
事業所名：グループホーム安養

1. 全体状況

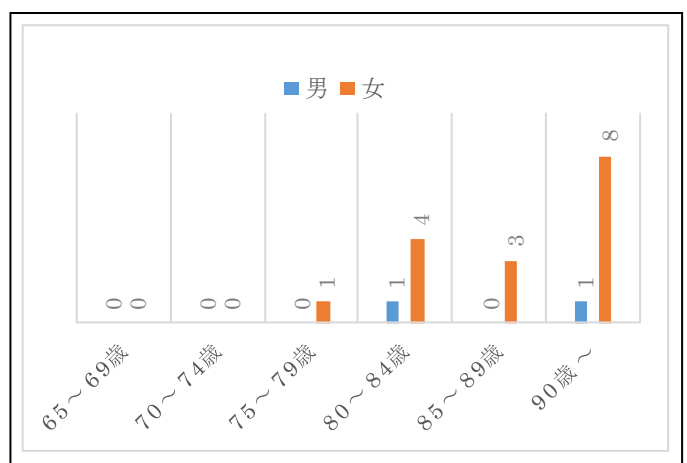
感染予防を徹底・防護服着脱の確認・感染者発生のシュミレーションを行うなど万全の対策を行い、させない為の努対応を徹底いたしました。結果ご入居者への感染は無く、職員に於いても1名が自宅で感染、他数名の方が交合に濃厚接触者となりましたが感染には至りませんでした。感染時等含め限りある人材の条件の中で職員間の協力を得て年間大きな課題等迄には至らず経過することが出来ました。なお、職員の能力や経験を考え法定研修・権利擁護研修を中心に外部研修への参加、施設に於いても同様の勉強会を行い、職員個々が同じレベルアップに繋げるよう取り組みを行い、モチベーションのアップや向上心を持つという部分について課題は残るものの、相応の成果もあったと思われます。最後にご利用者の動向では2名の方を施設に於いて看取り、1名の方が急変にて病院で逝去されており、スタッフについても数名の退職などあり、結果的には体制の維持が課題として残りました。

2. 運営状況

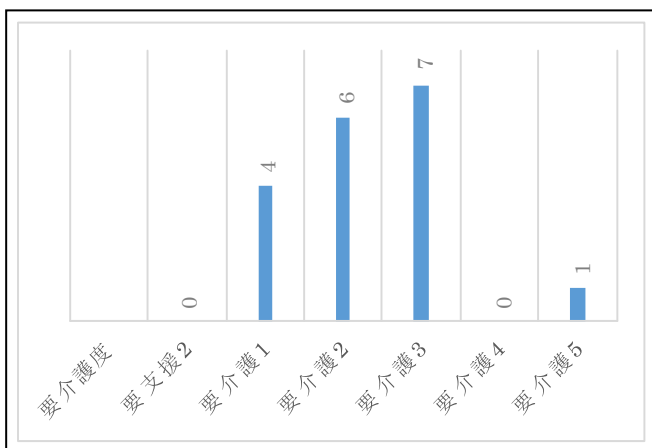
【図1 実績】(収入実績前年比 106.2%)



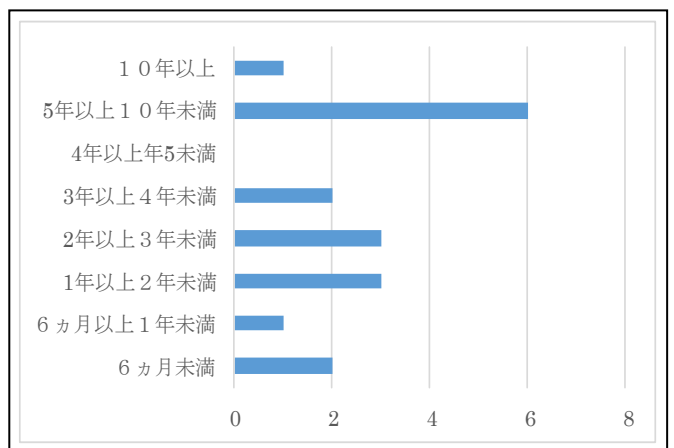
【図2 男女・年齢比】(平均 88.38 最低 79 最高 102)



【図3 要介護度別内訳】(平均介護度 2.33←2.16)



【図4 在所期間】(最長在所期間：10年1か月)



令和4年度事業報告書

事業所名：福岡ケアサービスヘルパーステーション

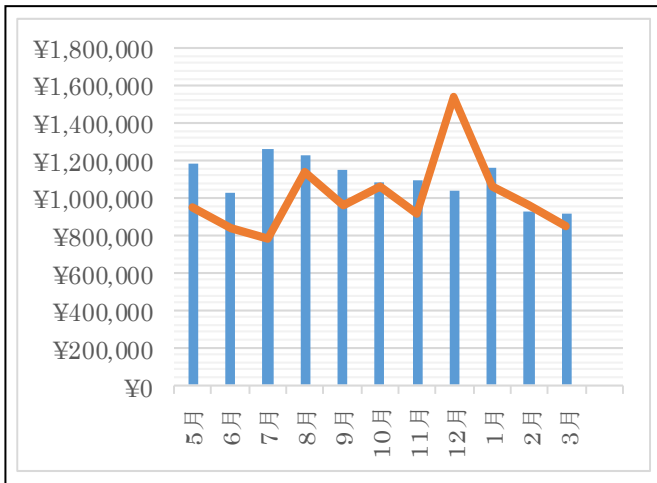
1. 全体状況

令和4年度もケアハウスのご入居者の支援増を念頭に取り組み、居宅支援事業所への支援内容の提案と見直しを行ったが、前年に比べると減収となった。但し何とか継続的に収入は安定させることができた。ここ数年の懸案事項であるスタッフの獲得については、新規に1名と登録ヘルパーから1名を常勤パートとして迎える事ができ、人員の確保につなげることは出来た。また新規の非常勤パートについては、訪問介護という制度の理解から指導していく必要があり、戦力としてヘルパー業務を任せるには時間を要している状況であり、人材の確保だけでなく業務の標準化、人材育成は今後の課題として残る。

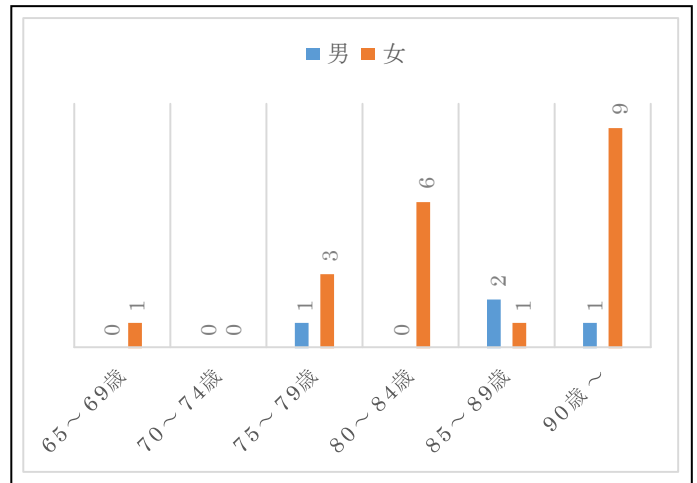
次年度も引き続き利用者獲得（主にケアハウス入居者支援）と利用単価の底上げと人材育成を行いながら法人内事業所との連携・協力に取り組んでいく。

2. 運営状況

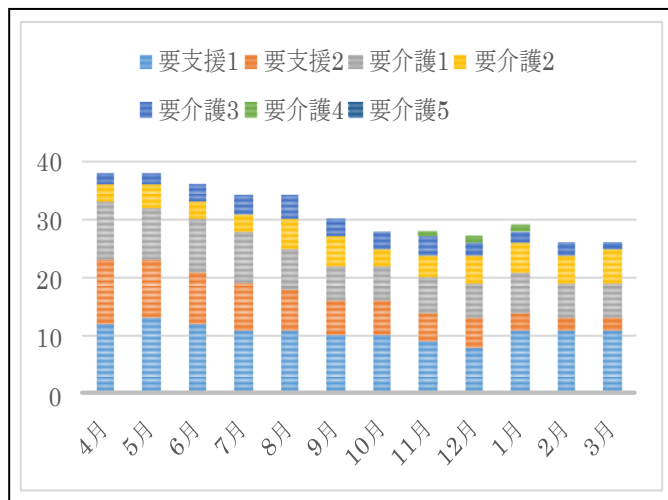
【図1 実績】（収入実績前年比 98.98%）



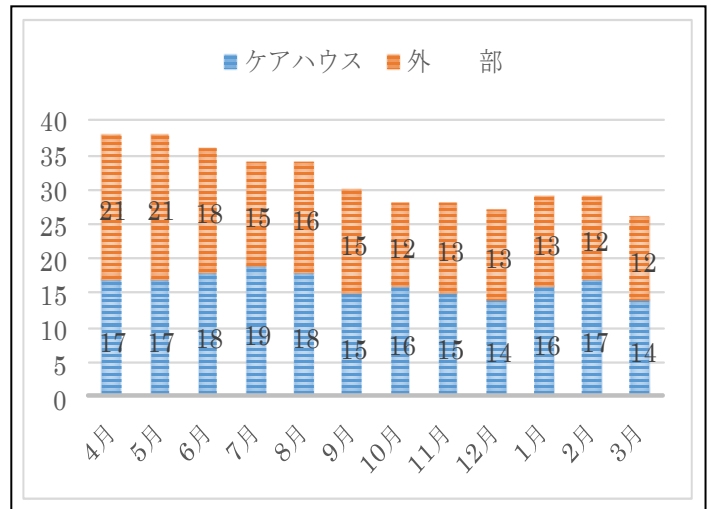
【図2 男女・年齢比】（平均 86.41 最低 67 最高 71）



【図3 月次要介護内訳比率 54.3%←37%】



【図4 内部連携率 52%】



令和4年度事業報告

事業所名：グループホーム花安養

1. 全体状況

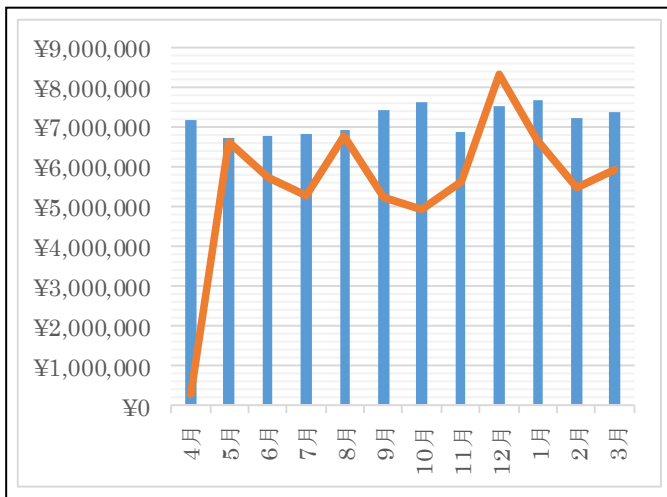
今年度は入院件数 12 件、退居が 4 件と例年より入院件数退居件数ともに多く（前年比 4 件）、入院期間は一週間以内から二か月以内で抑えることが出来たものの、退居から入居まで 2 カ月弱かかる事例も有り空室の期間も長くなったことで結果運営的には大変厳しい状況となった。

また昨夏には、入居者 9 名、職員 6 名が新型コロナウイルス感染症に罹患し、クラスターとなった。備蓄していた備品では感染対策が追いつかず、法人内他事業所との連携を図りながら「ヒト・モノ」に関しては協力を仰ぎながら対応することが出来た。クラスター以外でも年間通して感染者等数名出しており、その点からも事業所運営として大変難しく感じた 1 年であった。

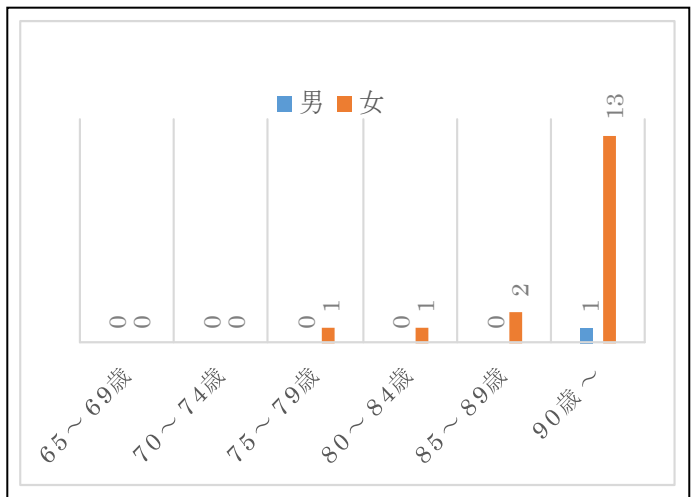
なお、昨年度は新たにサービス提供体制加算を算定し、難しい環境下においても事業所として出来る対応は行うことが出来た。

2. 運営状況

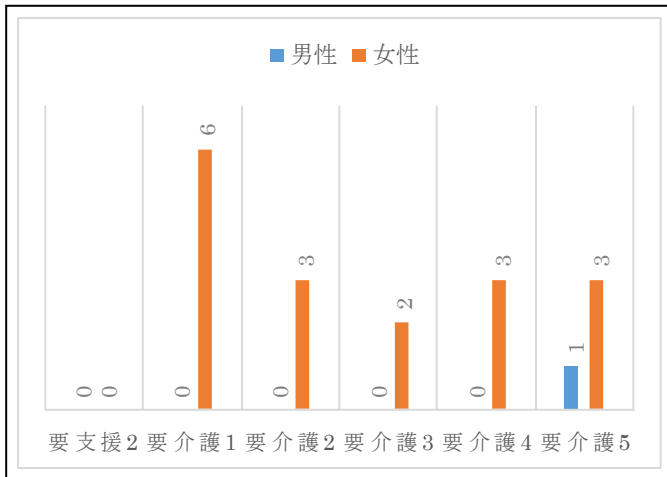
【図1 実績】(収入実績前年比 101.2%)



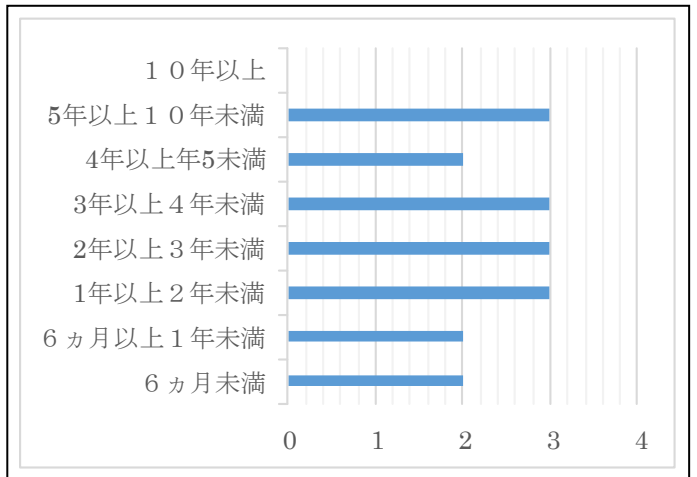
【図2 男女・年齢比】(平均 89.6 最低 71 最高 100)



【図3 要介護度内訳】(平均介護度 2.77←2.5)



【図4 在所期間】(最長在所期間：10年)



令和4年度事業報告書

事業所名 小規模多機能ホーム 桜さろん

1. 全体状況

年度内は月平均15.3名の契約数で推移し、前年度より微減となる。

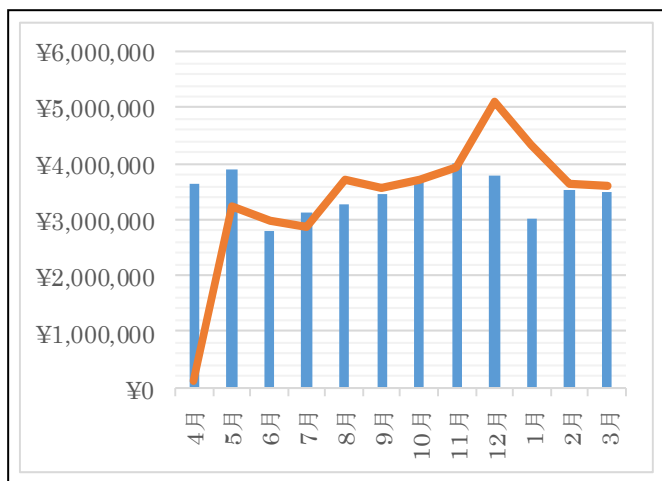
利用状況の詳細については、新規のご利用者は5月1名、7月1名、8月1名、10月1名、11月1名、12月2名、1月1名、2月2名、年間で10名が新規利用開始となったものの、利用解除等も重なり状況としては改善があまり見られなかった。ただその内、件数以上に中重度のご利用者の契約解除など重なり、実績以上に収支状況は悪化した状態となった。

また昨年度当初には新型コロナウイルス感染症におけるクラスターとなったことから、利用停止や制限等を2か月ほど行うことになり、大きな実績低下の要因となっている。通いサービスを中心とすることから、その間、他の事業所へ異動等の事例も有るなど事業継続計画等については課題を残すこととなった。

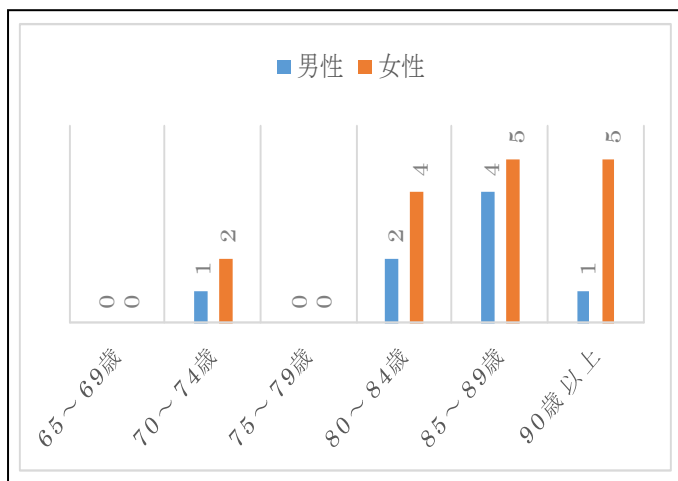
最後に前年度同様、利用者確保に苦慮していた状況で法人内の連携強化と新規開拓は喫緊の課題である。

2. 運営状況

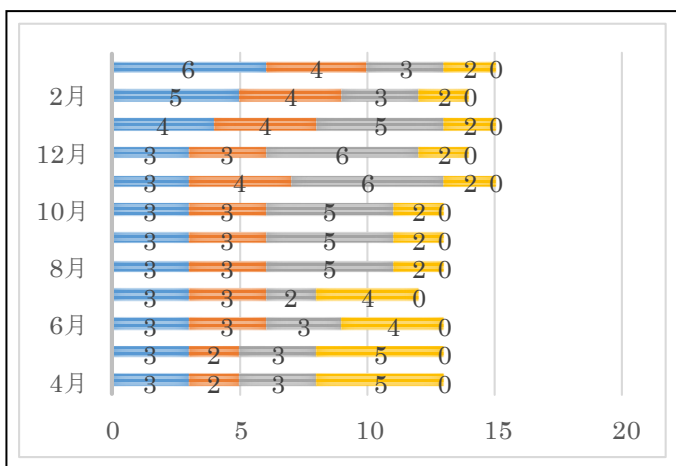
【図1 実績】(収入実績前年比 83.4%)



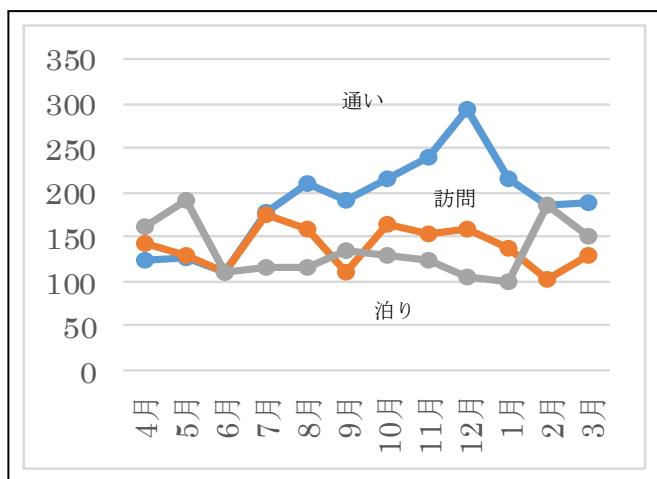
【図2 男女・年齢比】(平均 89.6 最低 70 最高 97)



【図3 月次登録者推移】(平均介護度 2.06)



【図4 サービス内訳】



令和4年度事業報告書

事業所名 特別養護老人ホーム 初花

1. 全体状況

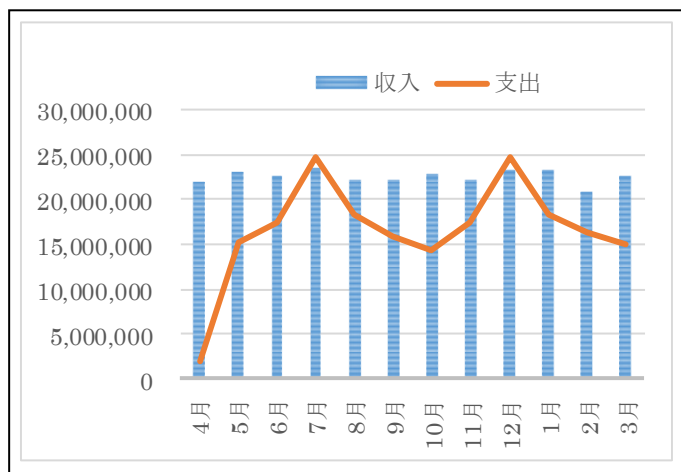
令和4年度については、新型コロナウイルス感染症対策が施設運営の懸念点としながらも、年度内にクラスター化する状況が2度ほどあり、関係機関、医療機関等との連絡調整に努めながら、対応を余儀なくされました。このような状況を背景とし、今年度の医療機関への入院は43件（入院日数1117日__年比126%）、また入退去の状況については退去者20名、新規入居者20名と施設開設以来の大きな入れ替わりがあり、特養の入居条件の重点化による高齢化、重度化の影響に加えてここ数年のコロナ禍のよりサービスの提供体制への影響が少なからず出ているのかと思われます。それに伴い本施設の空床期間の長期化は運営に大きな影響を与えています。介護報酬等の条件もありますが、今後再検討を余儀なくされることが懸念されます。

ただ施設の運営面而言えば、誤嚥性肺炎プロジェクトの活動も、その取り組みが一定程度成果として出すことが出来、実践が継続できています。また当年は福岡県ノーリフティングケア普及啓発事業に参画し、介護職員の抱えない介護、負担軽減について取り組みを開始し、今後の多様な人材確保の場面に備えケアの質の向上に向けて取り組みを行っています。

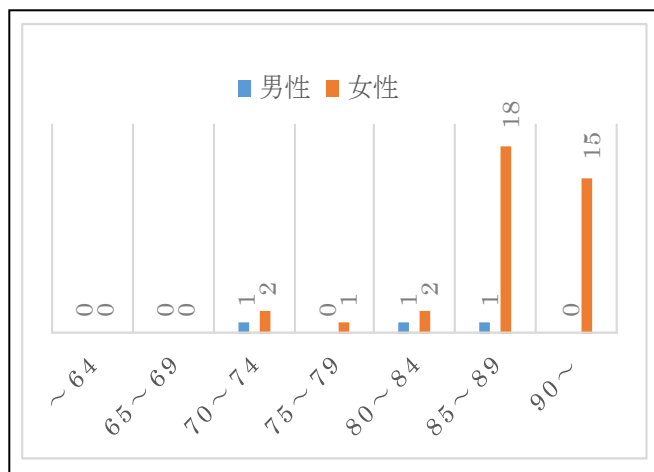
今期、遅れてではあるもののLIFE登録・申請を行い、介護報酬の加算算定も行うことが出来ました。来期は介護報酬改訂も控えているため、今後の状況を見据えた対応を心がけていく必要がある。

2. 運営状況

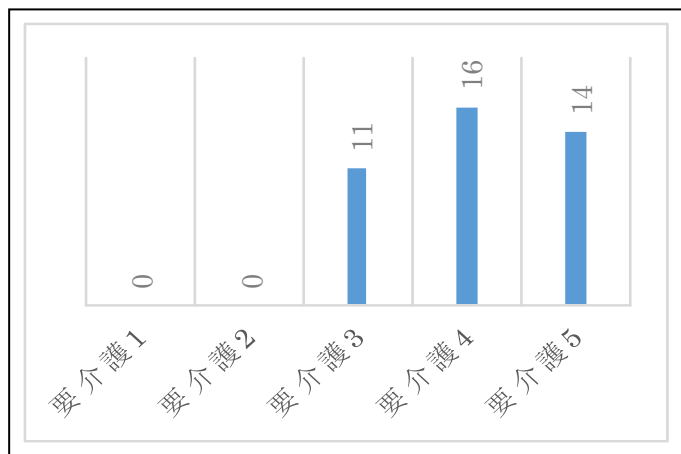
【図1 実績】（収入実績前年比 97.62%）



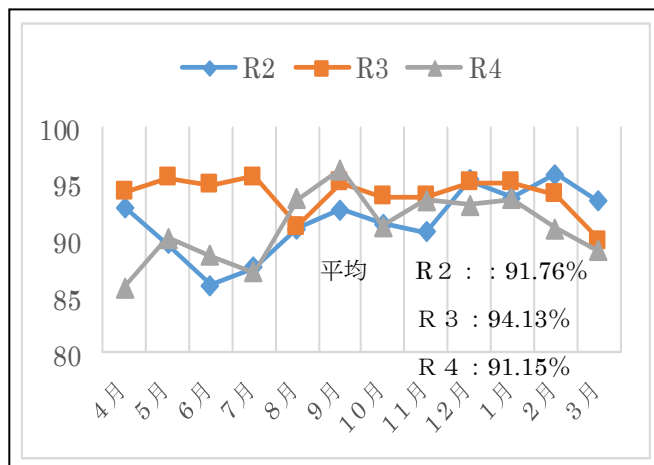
【図2 男女・年齢比】（平均88.80 最低74 最高102）



【図3 要介護度内訳】（平均介護度 4.07←3.9）



【図4 年間稼働率 91.15%】（前年度94.13%）



令和4年度事業報告書

事業所名 老人福祉センター 福寿園

総評

今年もコロナ対策に振り回され、計画した事業が、次々と変更あるいは中止を余儀なくされた年度となりました。文化祭、野点、コンサート、落語、納涼祭、囲碁大会等多くの人が自由に参加する行事は、軒並み中止となりました。また、各シニア教室も教場の収容人員制限のため、クラスを分割しての実施となり、受講の皆さんには、煩わしく、寂しい思いを強いることとなりました。少しでもクラス分けによる自分の受講日を理解していただくため、玄関ロビー前の大きな黒板にクラス分けした詳細な時間割表を掲示し、福寿園のブログにも、次月や次週からの時間割表をこまめに改訂して、掲載いたしました。

また計画書の中で「健康寿命講座」、「スマホ取り扱い講座」、「高齢者就業支援講座」を重点実施目標に掲げましたが、引き続き、コロナ感染防止措置を取ることとなりましたので、主にオンラインを利用して実施することといたしました。

先ず、「健康寿命講座」ですが、健康寿命講座として、「福岡ハートネット病院」のスタッフにより、オンラインで、6回の講座が行われました。参加者の皆さんは、大変熱心に受講されておりました。認知予防講座として、「西区保健福祉課」の皆さんに3回の対面講義をいただきました。参加者の皆さんは同世代の高齢者、興味津々で沢山の質問がありました。そのほか、栄養口腔講座として、「福祉局の口腔支援センター」による講義がありました。「スマホ取り扱い講座」は、近隣の「ドコモショップ」のスタッフの方々に3回、講義と操作方法の実演をしていただきました。また、その他、スマホとりわけZOOMの取り扱い講座を7回行いました。とても人気講座で、講義の時間を過ぎてもなかなか終わらない状況でした。「高齢者就業支援講座」は、人材会社及びシルバー人材センタースタッフや落語講演も入れて、14回を計画しましたが、コロナ感染予防で中止あるいは興味を持つ利用者が少なく集まらなくて中止と6回しか実施できませんでした。各種のPRにもかかわらず、合同企業説明会にもわずかの人が集まらず、期待する程興味を示されませんでした。高齢者就業は、70歳定年で退職した利用者に、いかにしたら、再就職に興味を持っていただけるのか、思案の日々です。

コロナ禍で、利用者の増加は望めないものの、現在来ていただいている利用者の方々には、福寿園に興味を持っていただくよう努めました。通常文化祭が開催できないことから、舞台発表を行えるような教室については、練習風景をビデオで撮り、福寿園のブログ上に掲載し、発表の意欲を少しでも叶えるようにしました。なお、教室受講生の発表意欲を高めるため、福岡市高齢者演芸大会や西区高齢者演芸大会の出演を案内し、外部での発表も行っていました。他には、福寿園では10名の定員に達しないがために、開講が不可となった次年度教室のうち、近隣の他園では開講が見込める同様の教室を申込者に紹介し、そちらの園で、次年度教室をお楽しみいただけるような案内も致しました。

福寿園の建物も、老朽化があちこちで目立ってきております。設備の者が毎日館内を回り、不良個所の点検と小修理をしております。とりわけ、風呂の設備は、3年間も休止状態となっているとはいえ、西部工場から排出される蒸気は日々、送気されており、さらに、バルブ等の複雑な構造と相俟って、日々の点検は欠かせません。また、再開に備えて、レジオネラ属菌の発生等がないよう、時折、試験的にお湯を風呂まで流す等の点検作業もしております。

令和5年度は、コロナ感染予防対策も少しずつ緩和され、本来の事業実施への明るい兆しが見えかかっております。引き続き老人福祉センター運営を行うために、全力を傾注したいと考えております。